

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1176100285
法人名	株式会社あすなるホーム
事業所名	あすなるホーム幸手
所在地	340-0156 埼玉県幸手市南3-23-30 (電話) 0480-40-3262

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500 円	その他の経費(月額)	20,000円 + 実費	
敷金	有 (80,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,400円				

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	58 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白岡中央総合病院、小森谷歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年11月1日に開設し4年5ヶ月を迎える当ホームは、静かな住宅地にあり2階建ての2ユニットである。また、敷地内にはデイサービスも併設されている。ホームではよりよいケアの実践とスタッフ教育に重点を置き、ホーム長に看護師を起用している。各ユニットでは利用者一人ひとりの生活のリズムを大切に、静かに見守り、必要に応じて個別に支援している。また、家族との関係や地域との連携についても積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善項目については、改善計画シートを作成し取り組んでいる。現在までに80%が改善された。しかし、食事を楽しむことのできる支援が十分とは言えないため、引き続き今後の課題としている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 会議で全員に資料を配布し、自己評価の目的を説明し、日々の実践を振り返りながら改善計画表を作成し、職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 前回の運営推進会議の検討事項の報告や現状報告を行い、出席者から意見をいただき運営に活かしている。なお、自己評価や外部評価の結果についても詳しく説明し、サービスの質の向上につなげている。会議に出席できなかった人や関係者にも理解していただくために、玄関の近くに掲示している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームでは利用者はもちろん、身近な家族の関係を大切に、何でも話せるような雰囲気作りを努めている。また、貴重な意見は謙虚に受けとめ、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、地域の夏祭り等の行事に参加したり、ホームの納涼会には地域の人を招待している。また、近所のごみ拾いに参加したり、朝夕の挨拶やお花をいただいたりと、地域の人との交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「いつでも安心して生活できる家を提供します。一人一人の感性を大切に、心をこめた介護サービスを提供します。地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します」の3点を掲げ、地域密着型の理念を盛り込んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の実践に向けて日々取り組んでいる。月1回の会議の際には、全職員で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域の夏祭りなどの行事に参加したり、ホームの納涼会には地域の人を招待している。また、近所のごみ拾いに参加したり、朝夕の挨拶やお花をいただいたりと、地域の人との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価については、職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果については、職員及び関係者に報告し、改善すべきところは改善計画を作成し取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。内容については、前回の検討事項の報告と現在取り組んでいる問題等である。特に、自己評価及び外部評価については詳しく説明をしている。なお、会議での意見は謙虚に受け止め、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のサービス等に関して市の担当者に相談や報告をしながら関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に、利用者の健康状態や日常生活の様子を話したり、その他金銭関係等について定期的に報告している。なお面会がない場合には、関係書類をコピーして、手紙を添えて郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは利用者はもちろん、身近な家族の関係を大切に、何でも話せるような雰囲気作りに努めている。また、貴重な意見は謙虚に受け止め、ミーティングで話し合い、反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階2階は常に利用者と職員は行き来しているので、職員の異動に対しても特に問題はないため、本人が利用者に対して話している。また、離職の場合には利用者に不安を与えないように気配りしながら、利用者と家族に話している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修会が年2、3回、事業所系列による研修が年2回くらいあり、職員が平等に参加できるように努めている。なお、研修会終了後はレポートを提出し、伝達講習を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との交流をもち、情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得しないままサービスを利用し、混乱をきたす場合もあるので、ゆっくり話し合いながら、徐々に生活に慣れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とゆっくり会話しながら、お互いに理解を深め、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の関わりの中で、会話や表情、行動等から、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人をはじめ関係者から意見や希望等を聞き、それらの情報をもとに職員間で検討し作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度、達成状況を評価し計画を作成している。又見直し以前に変化が生じた場合には、検討し現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の要望に応じて、柔軟な対応と支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って、かかりつけ医を希望する人はそのまま継続し、特に希望等がない場合は訪問診療による支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは身近な問題として具体的な取り組み始めている。重度化した場合の対応や終末期の対応、職員の教育の問題等について計画中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各スタッフはプライバシーの尊重に心がけて対応している。また、個人情報の記入された書類等は所定の場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心のケアに心がけている。利用者のペースを大切に、日々穏やかに過ごせるような支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や調理は、敷地内のデイサービスで作り、出来たものが配膳車でホームに届くようになっている。また、利用者と同じテーブルと一緒に食事をしている職員は少ない。		利用者にとって食事が楽しく出来る支援のあり方について、話し合い改善につなげる努力を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り希望する時間に入浴が楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活習慣に近づけるような役割を持ち、趣味を活かし、喜びや気晴らしがもてるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出したい人、外出したそうな人等の希望を取り入れて、戸外に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害は理解しているが、事故防止のため、やむを得ず施錠している。		鍵を掛けることによる弊害については理解をされているので、これまで検討をされてきた内容に工夫を加え、弊害を取り除くための検討を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時を想定して、通報の方法や避難訓練を行っている。また、消防署から細かな指導も受けている。なお、災害時等には、地域の人々に協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量についてはチェックし記入されているが、水分摂取量のチェックがされていない。		利用者の健康管理上、水分摂取量の把握は必要である。水分のチェックを行い、細かい支援を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、日当たりもよい。テーブルの位置もゆったりと座れるように配置されていて、利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活様式に近づけるように、和式の生活をしてきた利用者の居室には畳を敷き、馴染みの物を飾ったり、自分らしく生活出来るように支援している。		